

水 痘 (みずぼうそう)

水痘（みずぼうそう）はとても感染力の強い感染症。保育園などで流行しやすく、小さい子どもがかかると、けっこう重い症状になりがちです。

現在は「特効薬」ともいえる飲み薬ができたおかげで、軽くすませることができるようになりました。

あらかじめワクチン接種を受けておくと、かからないか、かかっても軽くすみます。1歳～2歳で2回の接種を行っています（定期接種）。



世界の
子どもに
ワクチンを

日本委員会

水痘の先にあるもの

みずぼうそう（水痘）にかかると、治ったあとも、このウイルスが神経の中にひそんでいて、また悪さをすることがあります。

神経にそって出現し、胸に帯のようにつながって出てくることが多いので、「帯状疱疹」と呼ばれています。老人になり、抵抗力が落ちてくると再活性化されることがあります。子ども時代のウイルスが、何十年もひっそりと生きていたわけです。

周りに子どもがいると感染していきませんが、こんな時は2世代も前からの「贈り物」(?)ということになりますね。

みずぼうそう（水痘）

水をもった赤い発疹が、口の中から陰部、頭の中まで全身に出ます。発疹は2～3日でピークとなり、その後乾いて黒いかさぶたになります。平均して1週間ぐらいでよくなります。

治療

ウイルスの増殖を抑え、症状が軽くすむようアシクロビル（商品名：ゾビラックス、アストリックなど）という抗ウイルス薬を4～5日間使用します。それによって症状、経過を軽くすませることができます。他にかゆみ止め、熱冷ましも使うことがあります。



家庭で気をつけること

- ①かゆいけど：ひっかいてかきこわさないように爪は短くしておきましょう。赤ちゃんなら手袋をするのもいいでしょう。
- ②お風呂：お風呂でさっと汗を流しておくほうが、かゆみも少なく、化膿することも少ないものです。
- ③食べ物：口の中にできると痛いので、しみるもの（塩辛いもの、すっぱいもの）はいやがるでしょうね。とくに食べてはいけないものはありません。

こんなときはもう一度診察を

- ①発疹が赤く腫れて化膿したとき
- ②ぼんやり、ぐったりしていて元気がないとき
- ③4日以上熱が続くとき

保育所・学校

- 1週間ぐらいたって、ブツブツが全部かさぶたになったら行ってもかまいません。

◇解熱剤の注意

小児科では解熱剤としてアセトアミノフェン（商品名：コカール、カロナール、アルピニー、アンヒバなど）を主に使っていますが、これは水痘の時に使っても問題ありません。

アスピリンとその類似物質は15歳未満の水痘の時に使うとライ症候群という重篤な病気を引き起こすことがあり、使ってはいけないことになっています（インフルエンザも同様です）。

◇きょうだいの予防

水痘の感染力はとても強い（空気感染もします）ので、きょうだいのいる家庭では要注意。2週間の潜伏期で発症する可能性があります。

乳児は症状が重くなりやすいです。また、母胎からの移行免疫がほとんどないために、生後まもない赤ちゃんがかかることもあります。

予防接種をすませていれば、かからないか、かかっても軽くすむでしょう。

予防接種がまだすんでいない場合は、接触後早めにワクチン接種を行うことで症状を軽減させることができます（1歳以上が対象。1～2歳は定期接種で行えることがあります）。

また、潜伏期の途中で抗ウイルス薬を使用することで、やはり症状を軽くすることができます（保険適応外）。

◇水痘の予防接種

現在1歳～3歳未満の幼児を対象に、定期接種を行っています。3歳以上は任意接種になります。

2回の接種を行います。免疫のでき方が弱いので短い間隔で受けることになっています（標準は6か月から12か月）。

また、高齢者の带状疱疹を予防するために、50歳以上でも予防接種を受けることができます（任意接種）。